

調査・設計等業務における
総合評価落札方式の実施状況
(平成22年度年次報告)

国土技術政策総合研究所

年次報告の作成の目的

本年次報告は、国土交通省における総合評価落札方式の現況をとりまとめ、公表することにより、同方式の普及・拡大、ダンピング防止策、入札契約制度に関する諸課題への確実な対応に資することを目的として作成するものである。

目 次

1. 平成22年度 年次報告のまとめ	p.1
2. 建設コンサルタント業務の全契約状況	p.3
3. 総合評価落札方式による契約状況(概要)	p.4
4. 落札者の状況	p.6
5. 落札率の分布状況	p.9
6. 調査・設計分野における低入落札発生状況	p.12
7. 評価項目毎の採用状況	p.13
8. 評価テーマの設定状況	p.19
9. 評価項目毎の得点率	p.21
10. 落札者と評価値が2位、3位の技術点分布	p.27
11. 調達方式、配点比率と業務成績の関係	p.28

(1) 価格と品質による総合的な評価について

- ・ 調査件数5,064件中、技術点の最高得点者が落札した割合は87.3%であり、**技術競争が優位**な結果となった。
- ・ 価格点と技術点の比率について、1:1~1:3の全比率において**技術点1位者が落札した割合は75%以上**、**1:2と1:3では85%**を超えており、技術競争が優位な傾向が伺える。
- ・ 落札率の分布状況について、価格競争と比較すると、平均落札率が3.1ポイント高い。
- ・ **価格競争に比べて総合評価落札方式の低入落札発生率が低い**(価格競争:34.3%, 総合評価落札方式:7.2%)。
- ・ **総合評価落札方式の低入落札発生率7.2%は、21年度の11.2%から更に減少している。**

1

(2) 得点、業務成績の状況について

- ・ 評価項目は、**土木コンサル、測量、地質調査**ともに「**実施方針**」、「**評価テーマ**」に重点を置いている。
- ・ 評価テーマの内、**土木コンサル、測量、地質調査**ともに「**品質、精度向上**」が総じて多い。そのほか土木コンサルでは「**その他の技術**」が、測量、地質調査では「**施工、調査設計に関する技術**」が多い。
- ・ 落札者と非落札者の得点状況を比較すると、「**実施方針**」「**評価テーマ**」に対する**提案**において差が生じている。
- ・ **9割を超える業務で技術点順位が1位又は2位の者が落札している**。落札者と総合評価値が2位、3位の技術点を比較すると、その差5.5点の中で競争しており、上位3位までの平均点も44.6点。60点満点の中で**高いレベルで競争**が行われている。
- ・ 平成22年度の総合評価落札方式の成績評定点平均は75.5点となった。これは**価格競争よりも1.5点高い平均点**となっている。

2

●建設コンサルタント業務等の契約状況

- ・平成22年度の建設コンサルタント業務等の発注件数は12,986件。
- うち、総合評価落札方式は**5,064件(39.0%)**。対前年比で約1.5倍に増加。

地方整備局等(港湾空港除く)における契約状況

(件数)

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	増減率 (H22-H21)/H21
価格競争	8,901 (52.3%)	7,642 (49.2%)	7,622 (44.6%)	5,044 (38.8%)	▲33.8%
総合評価落札方式	23 (0.1%)	381 (2.5%)	3,404 (19.9%)	5,064 (39.0%)	48.8%
プロポーザル方式	5,072 (29.8%)	6,912 (44.6%)	5,853 (34.2%)	2,669 (20.6%)	▲54.4%
特命随意契約	3,030 (17.8%)	569 (3.7%)	229 (1.3%)	209 (1.6%)	▲8.7%
合計	17,026	15,504	17,108	12,986	▲24.1%

※対象は北海道開発局および8地方整備局の業務

※6業種(土木コンサル、測量、地質調査、建築、補償、発注者支援)

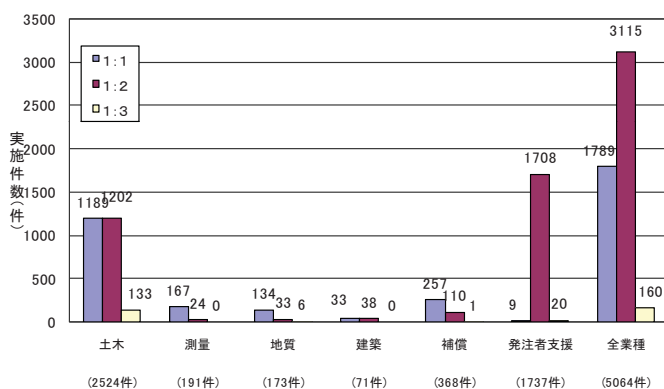
3

3. 総合評価落札方式による契約状況(概要)

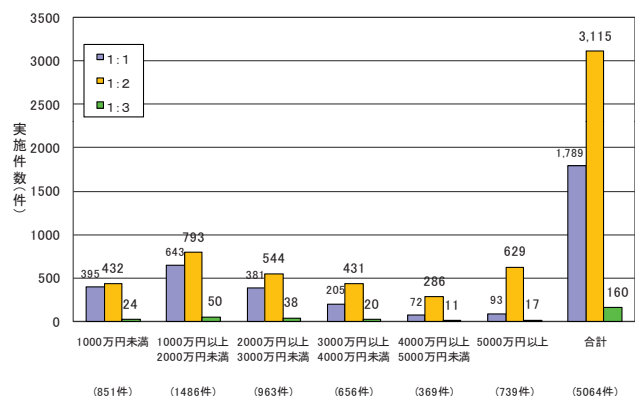
●総合評価落札方式による契約状況

- ・業務内容別では、土木コンサル2,524件、測量191件、地質調査173件、建築71件、補償368件、発注者支援関係1,737件。
- ・価格帯の内訳では、1,000万円～2,000万円が最も多く3割弱を占め、4,000万円未満で全体の8割弱を占めている。

H22年度 総合評価落札方式 業種別の実施件数



H22年度 総合評価落札方式 予定価格帯毎の実施件数

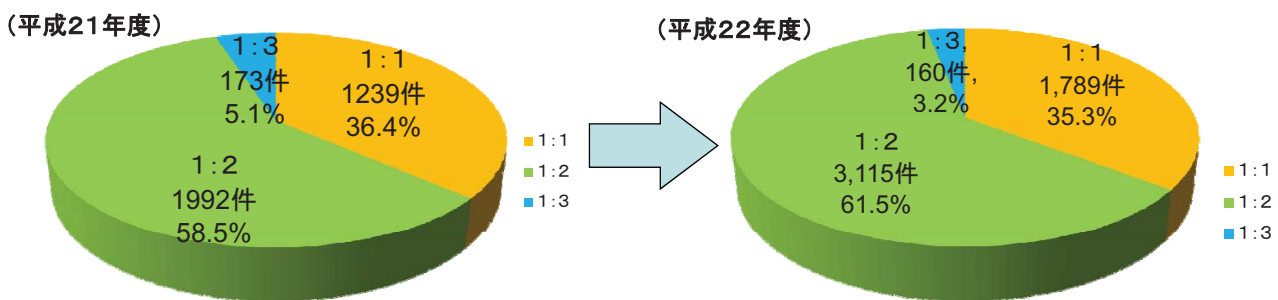


4

3. 総合評価落札方式による契約状況(概要)

・配点比率別では、1:1が35.3%、1:2が61.5%、1:3が3.2%であり、1:2と1:3で約65%を占める。

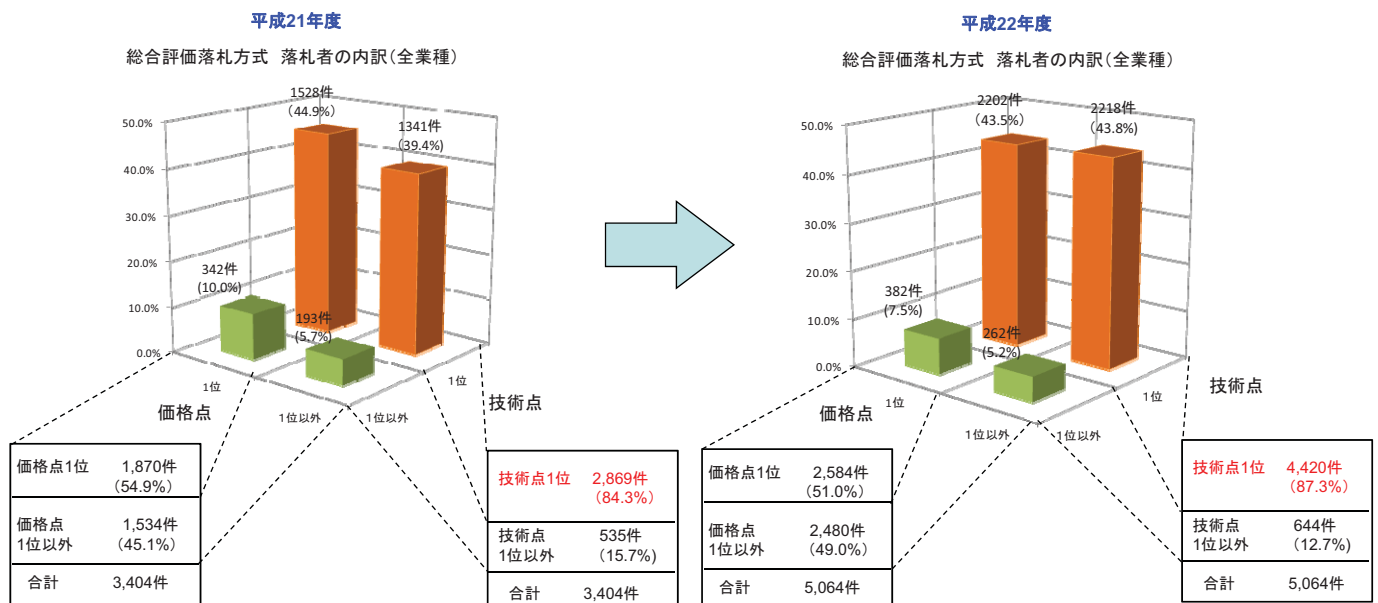
	比率	技術提案
標準型	1:3	実施方針+評価テーマ(2つ以上)
	1:2	実施方針+評価テーマ(1つ)
簡易型	1:1 ※業務の難易度に応じて1:2も使用可	実施方針のみ



※分析対象は全6業種(土木、測量、地質、建築、補償、発注者支援)、H21:3,404件、H22:5,064件

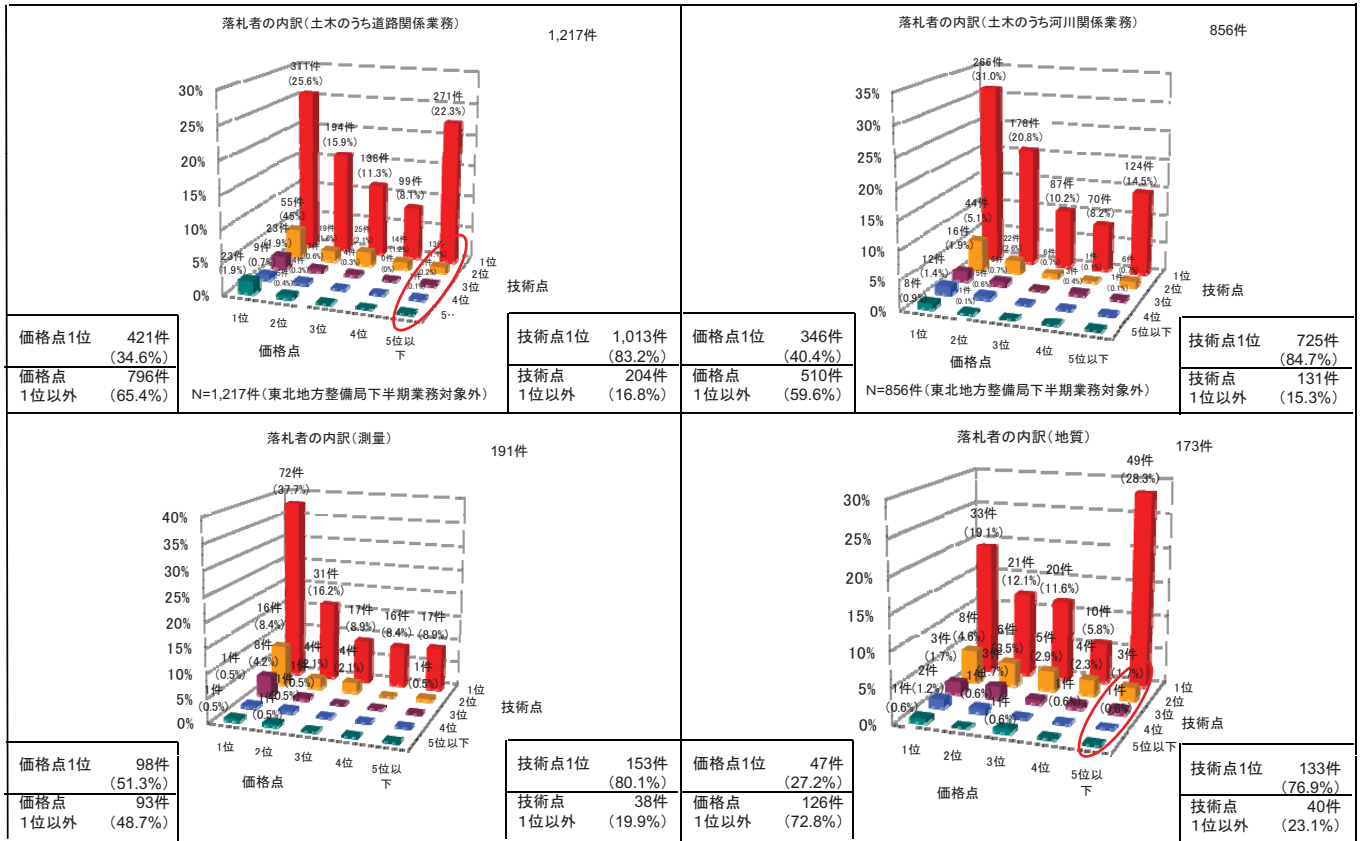
4. 落札者の状況(全体)

・最低価格者を含め、技術評価点の最高得点者が落札した割合(技術点1位)は4,420件(87.3%)であり、平成21年度に引き続き技術評価点による競争が優位な結果となっている。
 ・土木、測量、地質の業種別にみると、技術点1位が落札した割合は75%を越える。道路、地質分野においては、河川、測量分野と比較し、価格点が5位以下にもかかわらず落札した者が多い(道路23.6%、地質30.6%)。



※分析対象は全6業種(土木、測量、地質、建築、補償、発注者支援)、5,064件

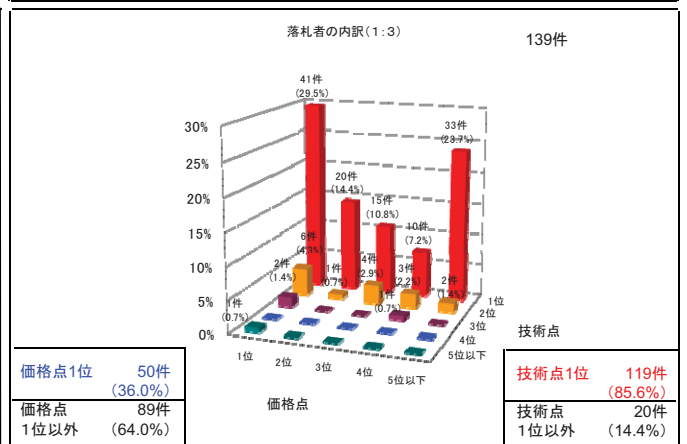
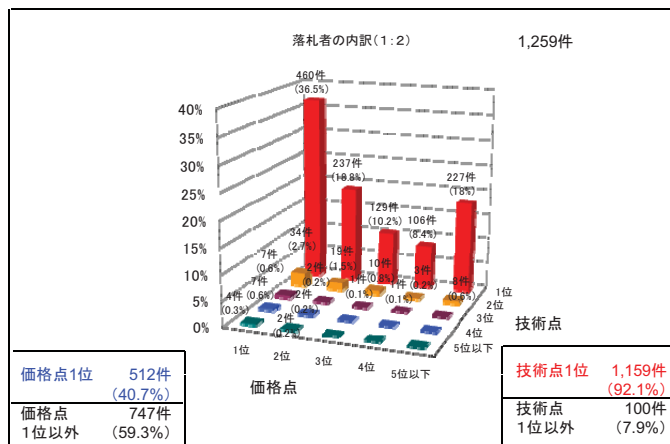
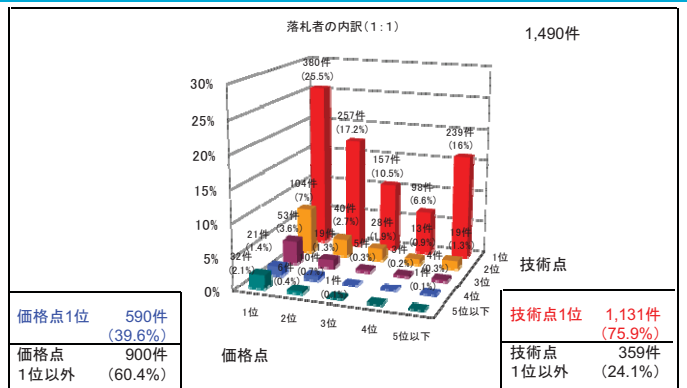
4. 落札者の状況(業種別)



7

4. 落札者の状況(比率別)

- 全比率において、**技術点1位者が落札した割合は75%以上**で、1:2と1:3では85%を超える。
- 技術点の割合が高くなると、**最低価格者(価格評価点1位)が落札した割合は、39.6%から36.0%に減少している。**

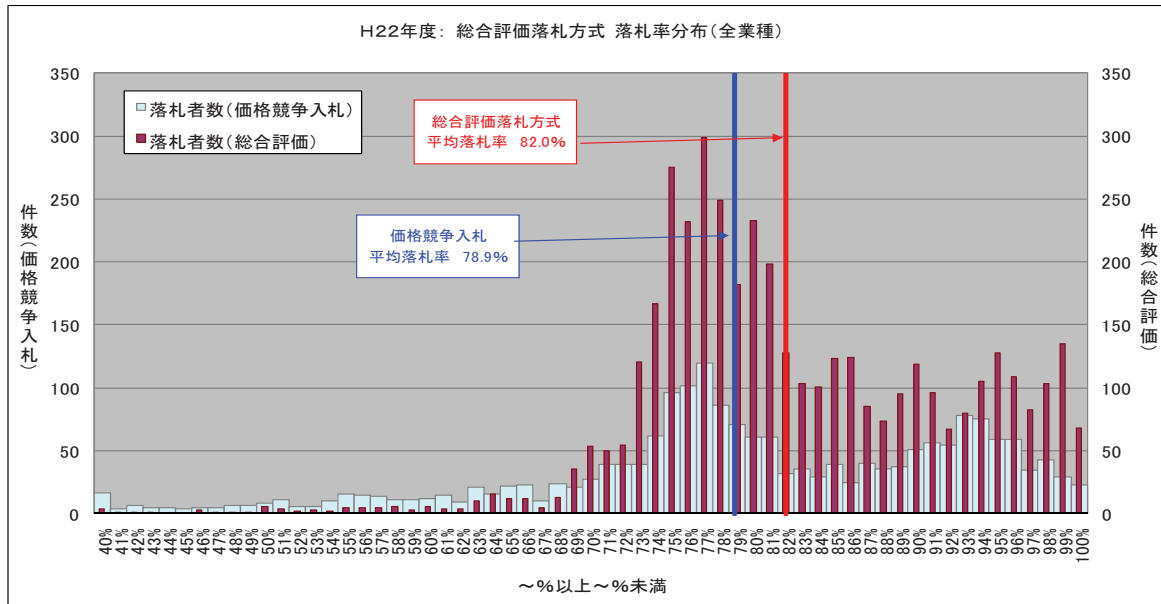


※分析対象は3業種(土木、測量、地質)、1,789件

8

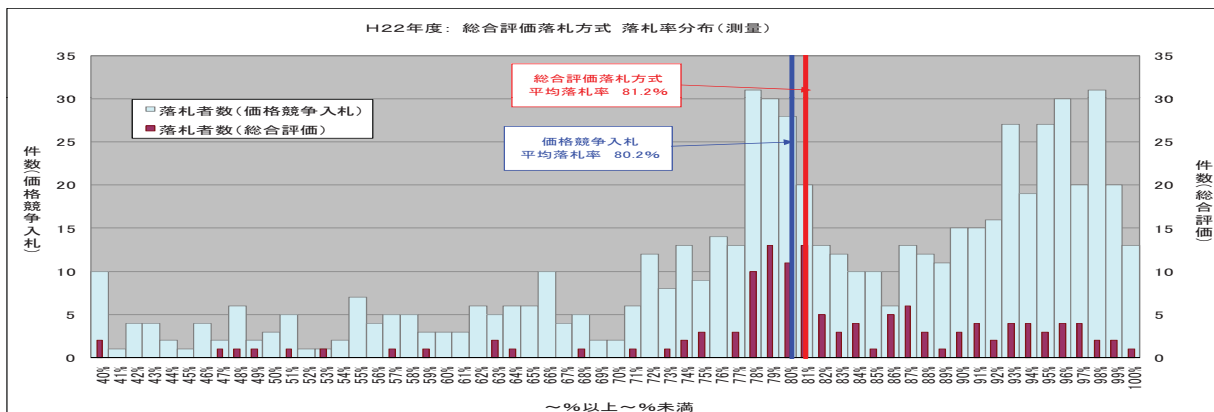
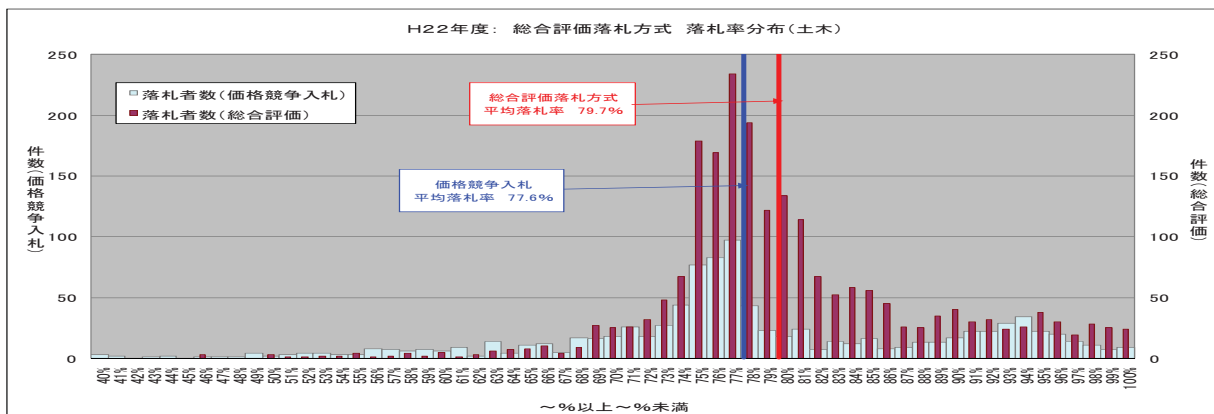
● 価格競争と総合評価落札方式との比較(1,000万円以上の総合評価4,213件と価格競争1,987件との比較)

- ・平均落札率は、総合評価落札方式(82.0%)のほうが価格競争(78.9%)より**3.1ポイント**高い。
- ・総合評価落札方式(82.0%)の比率別平均落札率は、1:1で78.9%、1:2で83.6%、1:3で82.8%である。

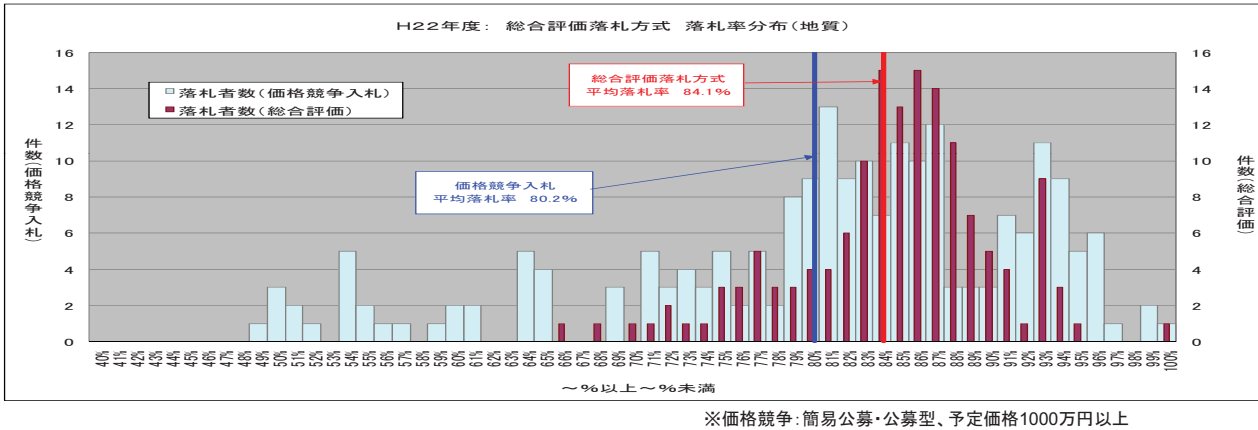


※分析対象は全6業種(土木、測量、地質、建築、補償、発注者支援)
 ※価格競争:簡易公募・公募型、予定価格1000万円以上

5. 落札率の分布状況 (土木及び測量)

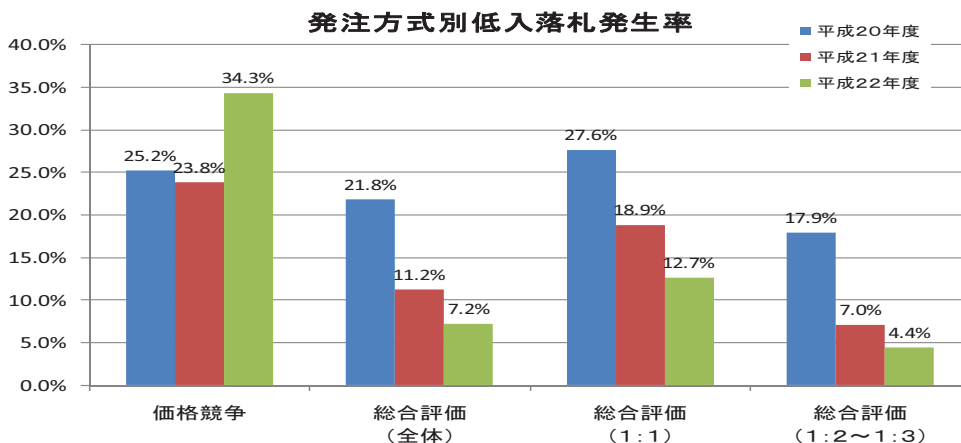


※価格競争:簡易公募・公募型、予定価格1000万円以上



6. 調査・設計分野における低入落札発生状況

- ・平成21年度と比較して平成22年度は価格競争に比べて総合評価落札方式の低入落札発生率が低い。
- ・総合評価落札方式の低入落札発生率は11.2%から7.2%に減少している。

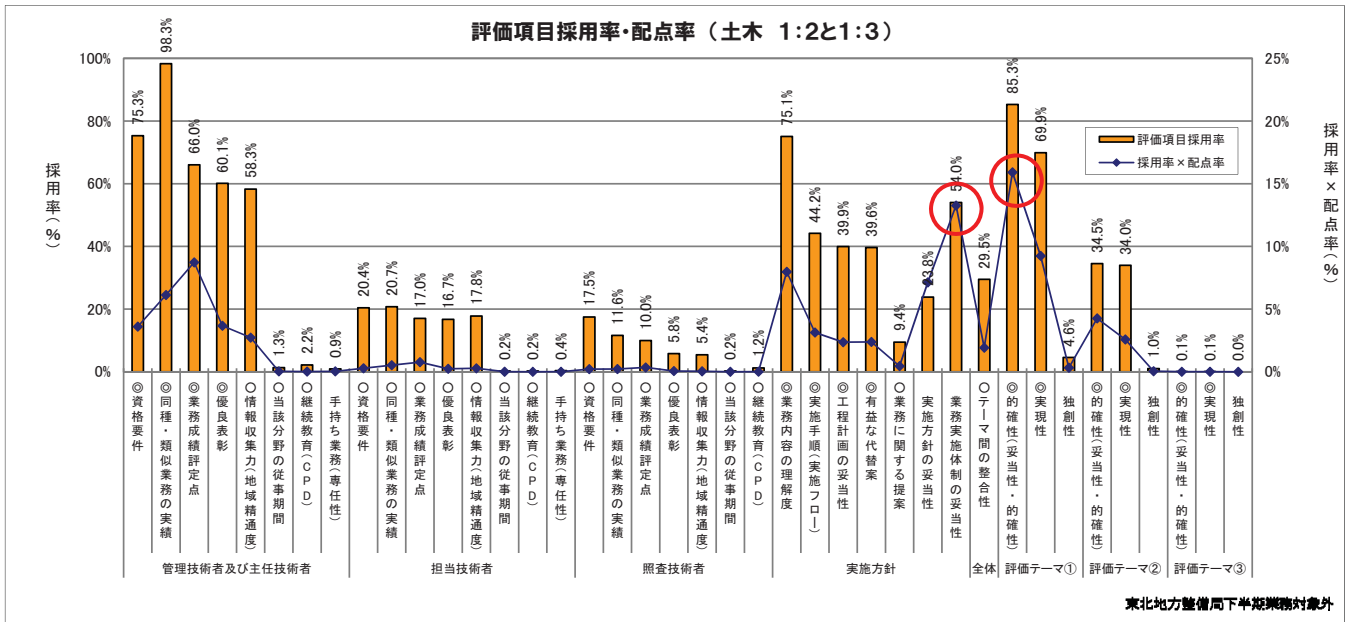


年度	対象業務件数	低入落札件数	発生率
平成22年度	価格競争	1,958 件	672件
	総合評価	4,195 件	301件
平成21年度	価格競争	3,780件	900件
	総合評価	2,946件	329件
平成20年度	価格競争	7,642件	1,927件
	総合評価	381件	83件

※分析対象は、全6業種（土木、測量、地質、建築、補償、発注者支援）の価格競争及び総合評価落札方式で調査基準価格が設定されている業務。

7. 評価項目毎の採用状況(土木 標準型)

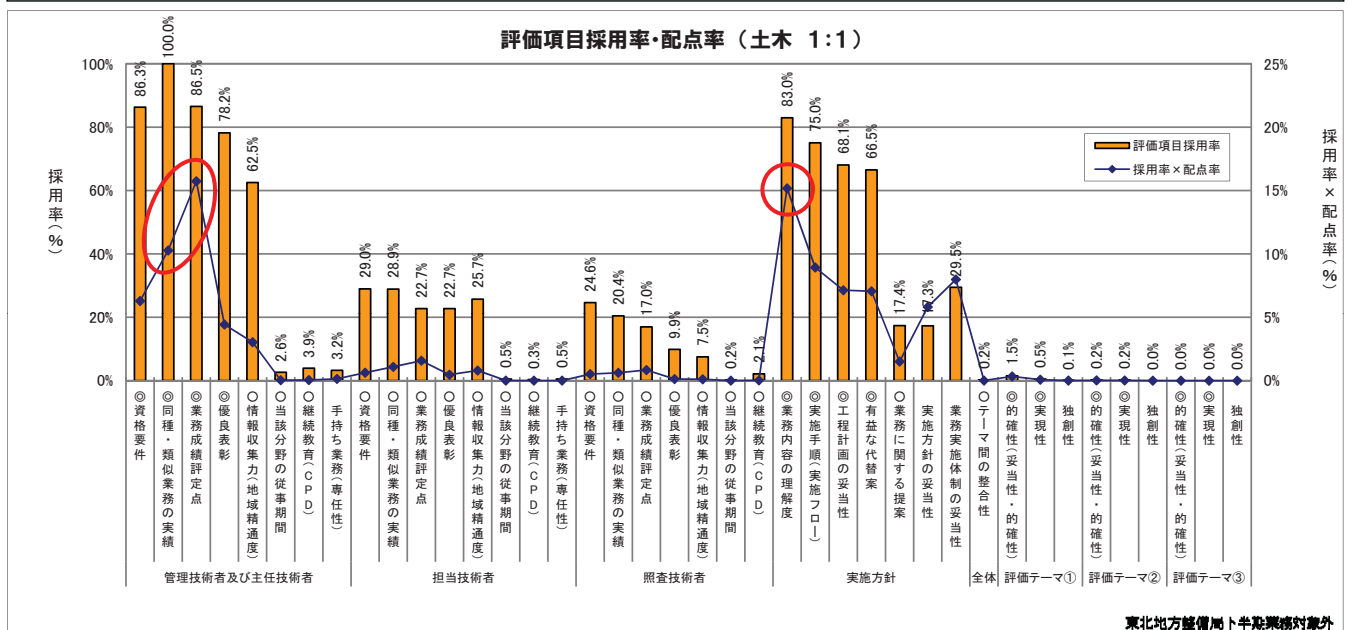
- ・土木分野(標準型)における技術評価項目の採用状況は、主として「管理技術者」の資格要件、同種・類似業務の実績、「実施方針」の業務内容の理解度、「評価テーマ」の的確性の採用率が高い。
- ・配点率まで勘案すると「実施方針」の業務体制の妥当性、「評価テーマ」の的確性が重視されている。



13

7. 評価項目毎の採用状況(土木 簡易型)

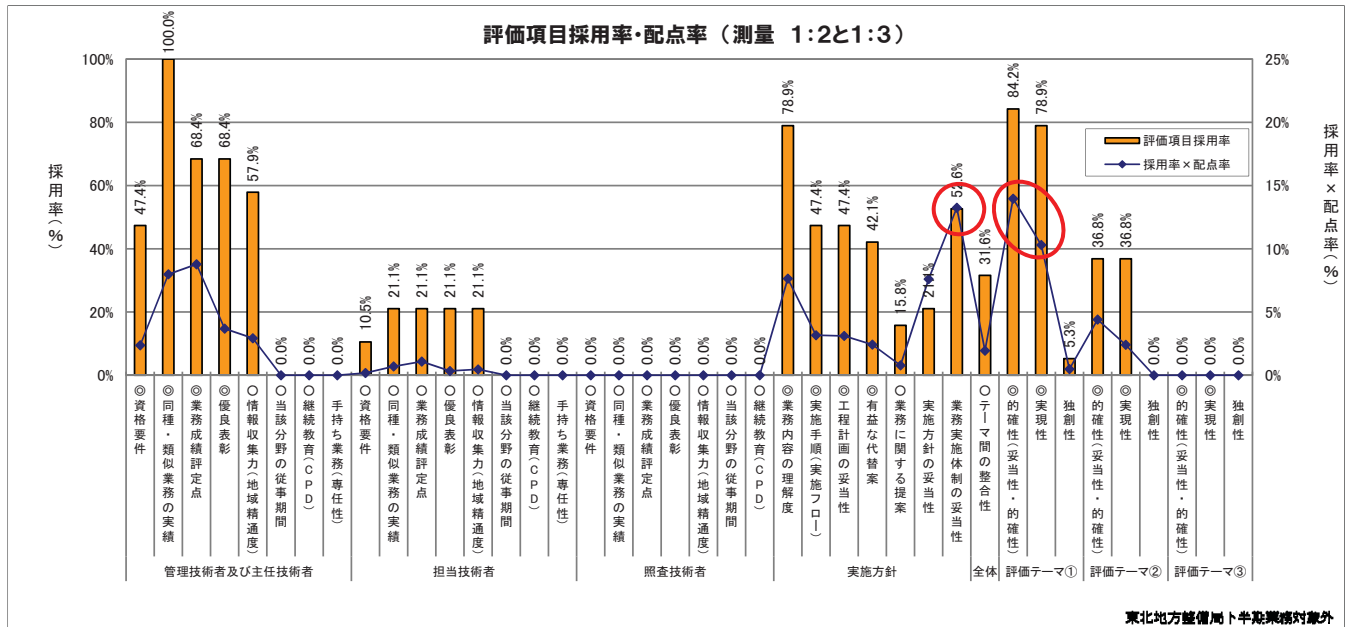
- ・土木分野(簡易型)における技術評価項目の採用状況は、主として「管理技術者」の資格要件、同種・類似業務の実績、業務成績評定点、優良表彰、「実施方針」の業務内容の理解度、実施手順の採用率が高い。
- ・配点率まで勘案すると「管理技術者」の同種・類似業務の実績、業務成績評定点、「実施方針」の業務内容の理解度が重視されている。



14

7. 評価項目毎の採用状況(測量 標準型)

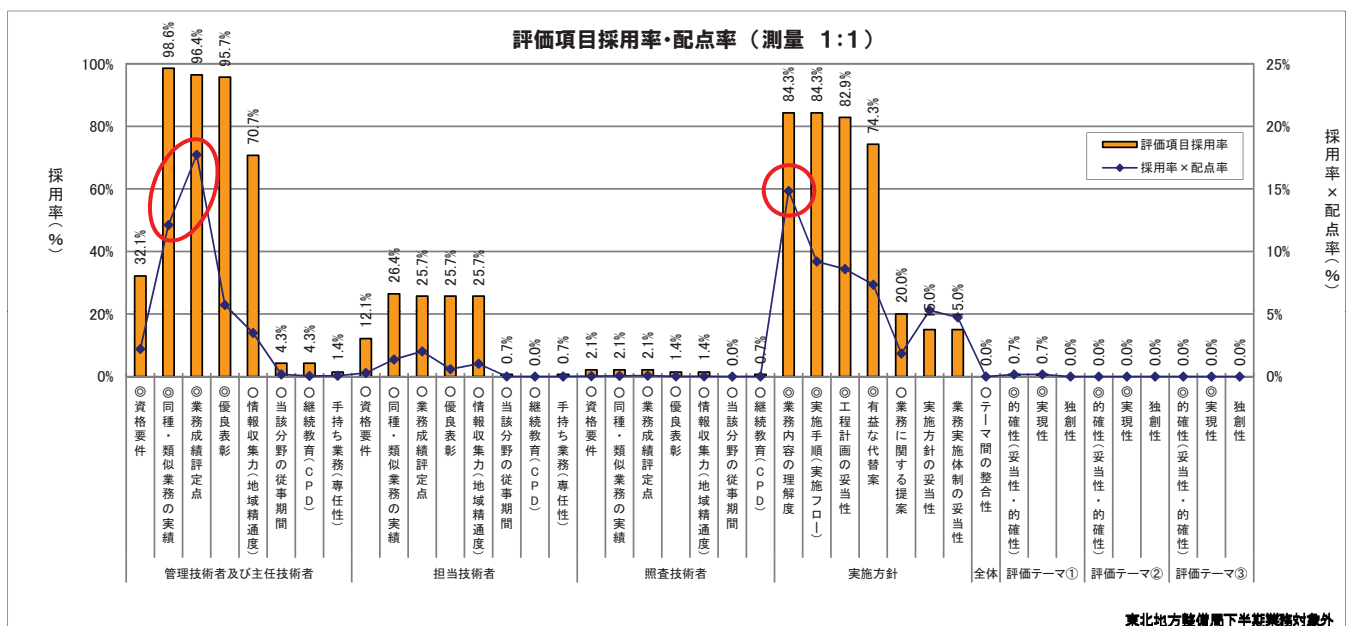
- ・測量(標準型)における技術評価項目の採用状況は、主として「主任技術者」の同種・類似業務の実績、「実施方針」の業務内容の理解度、「評価テーマ」的的確性、実現性の採用率が高い。
- ・配点率まで勘案すると「実施方針」の業務実施体制の妥当性、「評価テーマ」的的確性、実現性が重視されている。



15

7. 評価項目毎の採用状況(測量 簡易型)

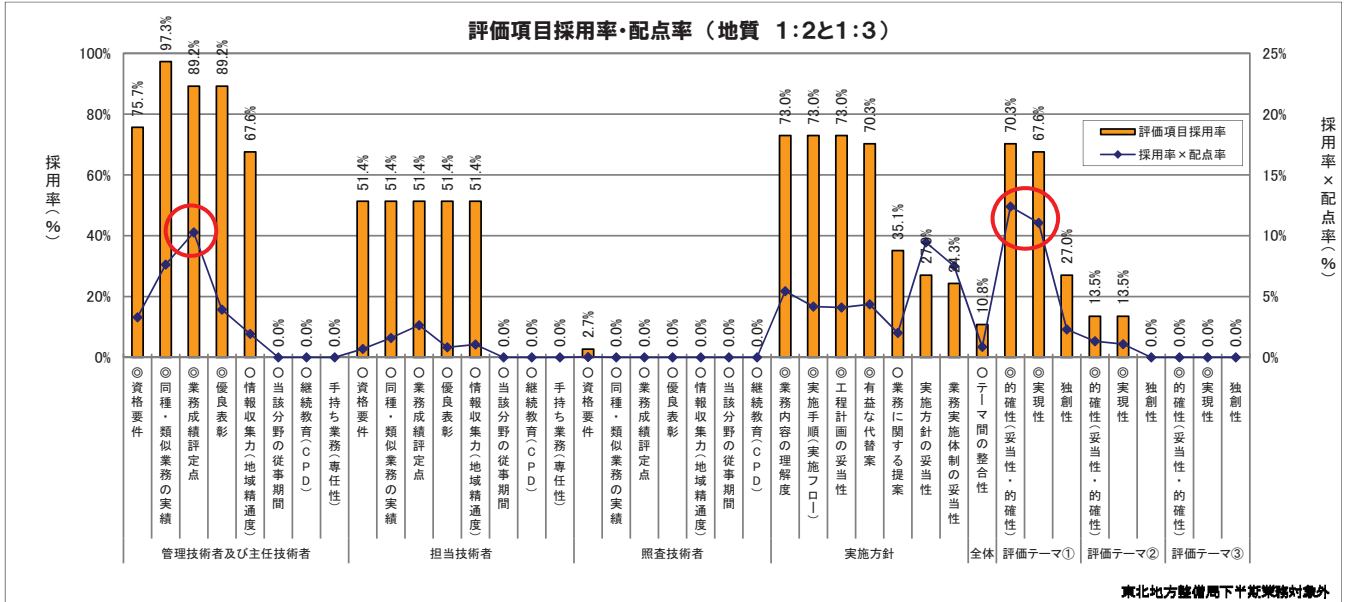
- ・測量(簡易型)における技術評価項目の採用状況は、主として「主任技術者」の同種・類似業務の実績、業務成績評定点、優良表彰、情報収集力、「実施方針」の業務内容の理解度、実施手順、工程計画の妥当性、有益な代替案の採用率が高い。
- ・配点率まで勘案すると「主任技術者」の同種・類似業務の実績、業務成績評定点、「実施方針」の業務内容の理解度が重視されている。



16

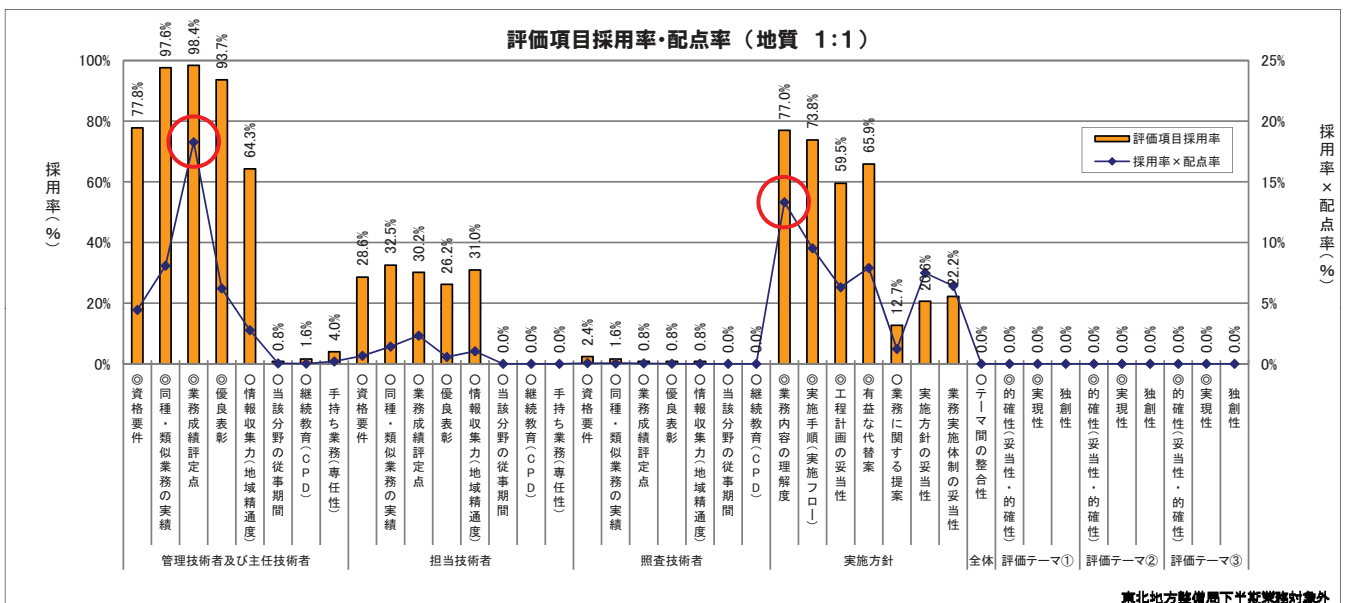
7. 評価項目毎の採用状況(地質調査 標準型)

- ・地質調査(標準型)における技術評価項目の採用状況は、主として「主任技術者」の資格要件、同種・類似業務の実績、業務成績評定点、優良表彰、「実施方針」の業務内容の理解度、実施手順、工程計画の妥当性、有益な代替案の採用率が高い。
- ・配点率まで勘案すると「主任技術者」の業務成績評定点、「評価テーマ」の的確性、実現性が重視されている。



7. 評価項目毎の採用状況(地質調査 簡易型)

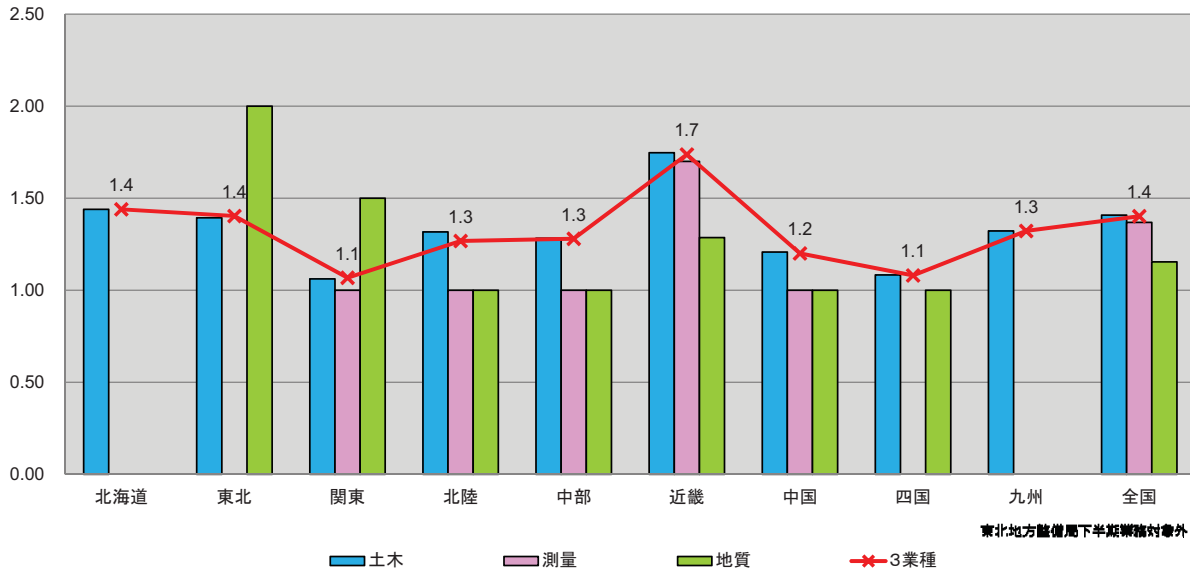
- ・地質調査(簡易型)における技術評価項目の採用状況は、主として「主任技術者」の資格要件、同種・類似業務の実績、業務成績評定点、優良表彰、「実施方針」の業務内容の理解度、実施手順の採用率が高い。
- ・配点率まで勘案すると「主任技術者」の業務成績評定点、「実施方針」の業務内容の理解度が重視されている。



8. 評価テーマの設定状況(テーマ数)

・評価テーマ設定の平均数は1.4。最も多いのは近畿の1.7、少ないのは関東、四国の1.1。

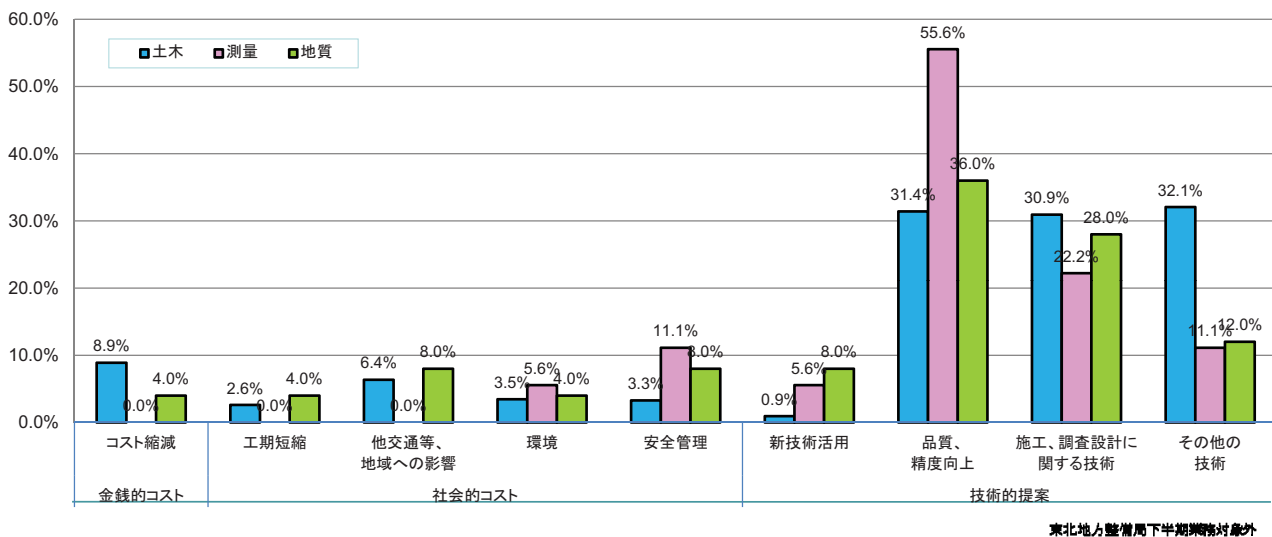
平成22年度 総合評価方式の地整別評価テーマの平均設定数



※分析対象は、3業種(土木、測量、地質)でかつ標準型(評価テーマあり)の業務件数1196件

8. 評価テーマの設定状況(テーマのカテゴリー)

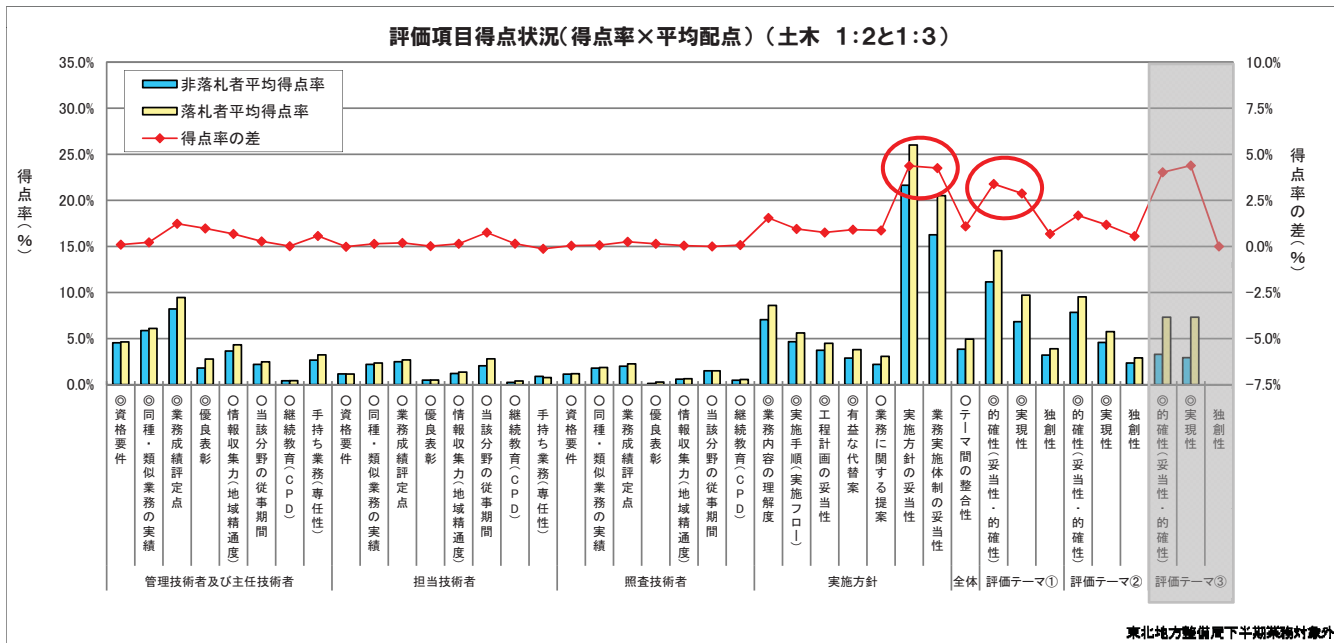
・測量、地質における評価テーマは、「品質、精度向上」が多い(55.6,36.0%)。
 ・土木における評価テーマは、「品質、精度向上」、「施工、調査設計に関する技術」、「その他の技術」が多く、その割合はともに30%強である。



標準型(評価テーマあり)の業務件数に対する各カテゴリーのテーマが採用された件数の割合

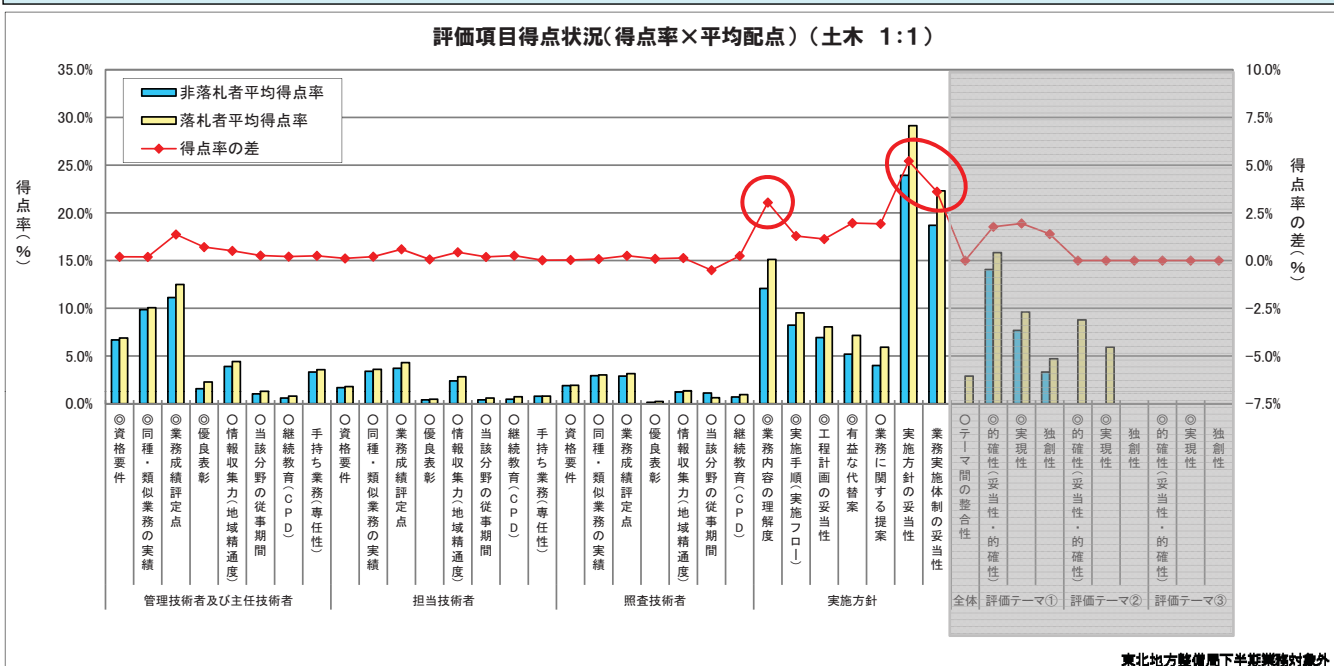
※分析対象は、3業種(土木、測量、地質)でかつ標準型(カテゴリー分類あり)の業務件数、1113件

・土木(標準型)における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「**実施方針**」の**実施方針の妥当性**、**業務実施体制の妥当性**、「**評価テーマ**」の**的確性**、**実現性**において差が生じている。
 一方、「**担当技術者**」、「**照査技術者**」の評価では大きな差は生じていない。



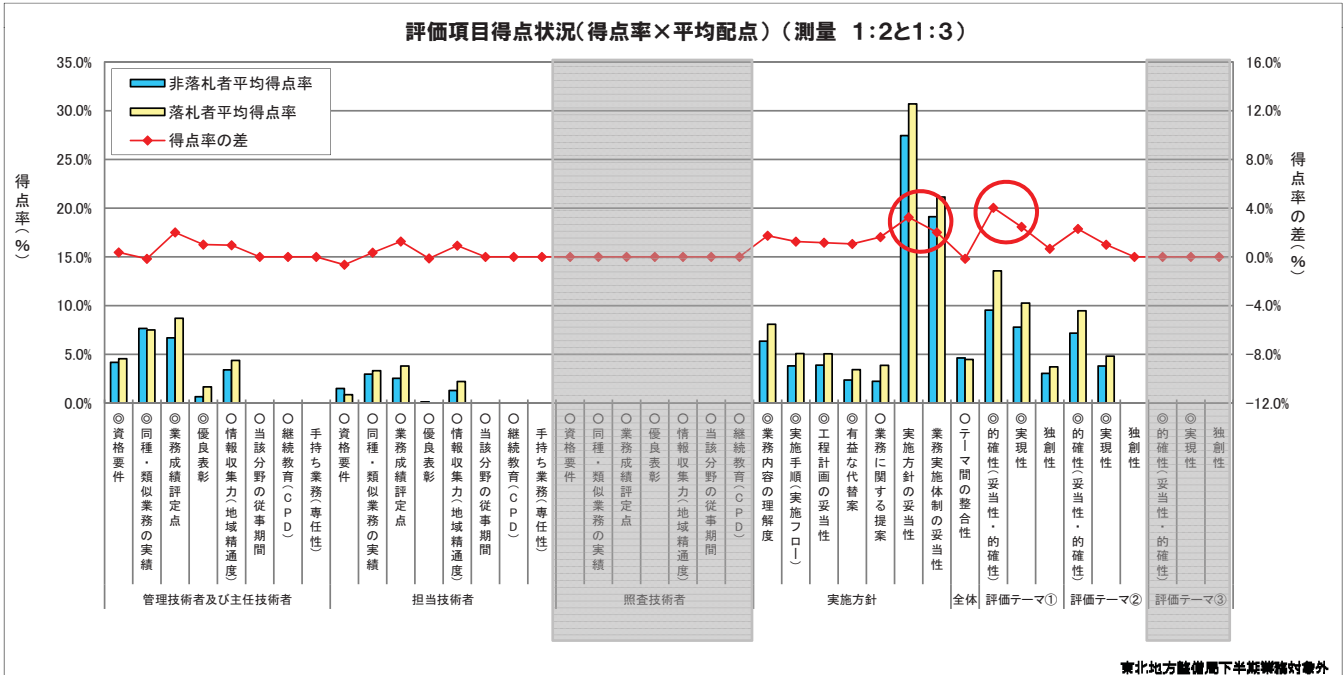
※得点率は、項目毎の満点に対する得点割合に各項目の平均配点率を乗じたもの。
 ※図中網掛け部分は、該当する評価項目の採用率が全て10%未満である「評価項目カテゴリー」を示す。

・土木(簡易型)における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「**実施方針**」の**業務内容の理解度**、**実施方針の妥当性**、**業務実施体制の妥当性**において差が生じている。
 一方、「**管理技術者**」、「**担当技術者**」、「**照査技術者**」の評価では大きな差は生じていない。



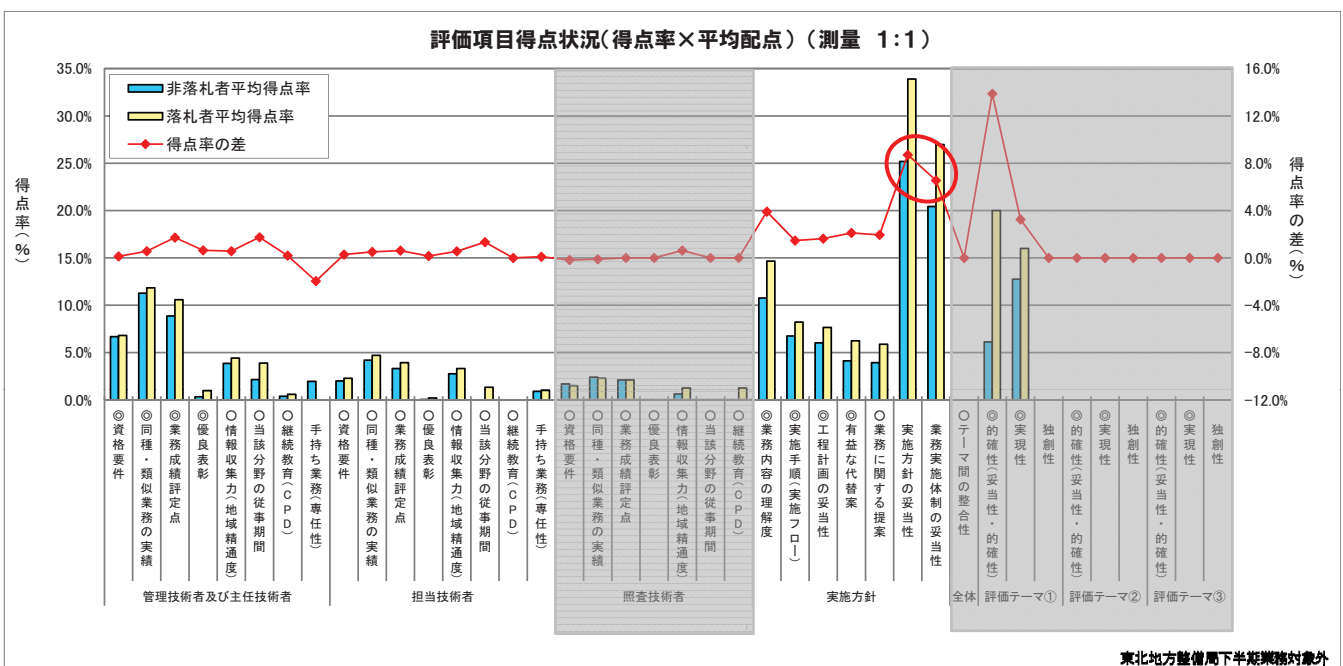
※得点率は、項目毎の満点に対する得点割合に各項目の平均配点率を乗じたもの。
 ※図中網掛け部分は、該当する評価項目の採用率が全て10%未満である「評価項目カテゴリー」を示す。

・測量(標準型)における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「実施方針」の実施方針の妥当性、業務実施体制の妥当性、「評価テーマ」的的確性、実現性において差が生じている。
 一方、「主任技術者」、「担当技術者」の評価では大きな差は生じていない。



※得点率は、項目毎の満点に対する得点割合に各項目の平均配点率を乗じたもの。
 ※図中網掛け部分は、該当する評価項目の採用率が全て10%未満である「評価項目カテゴリー」を示す。

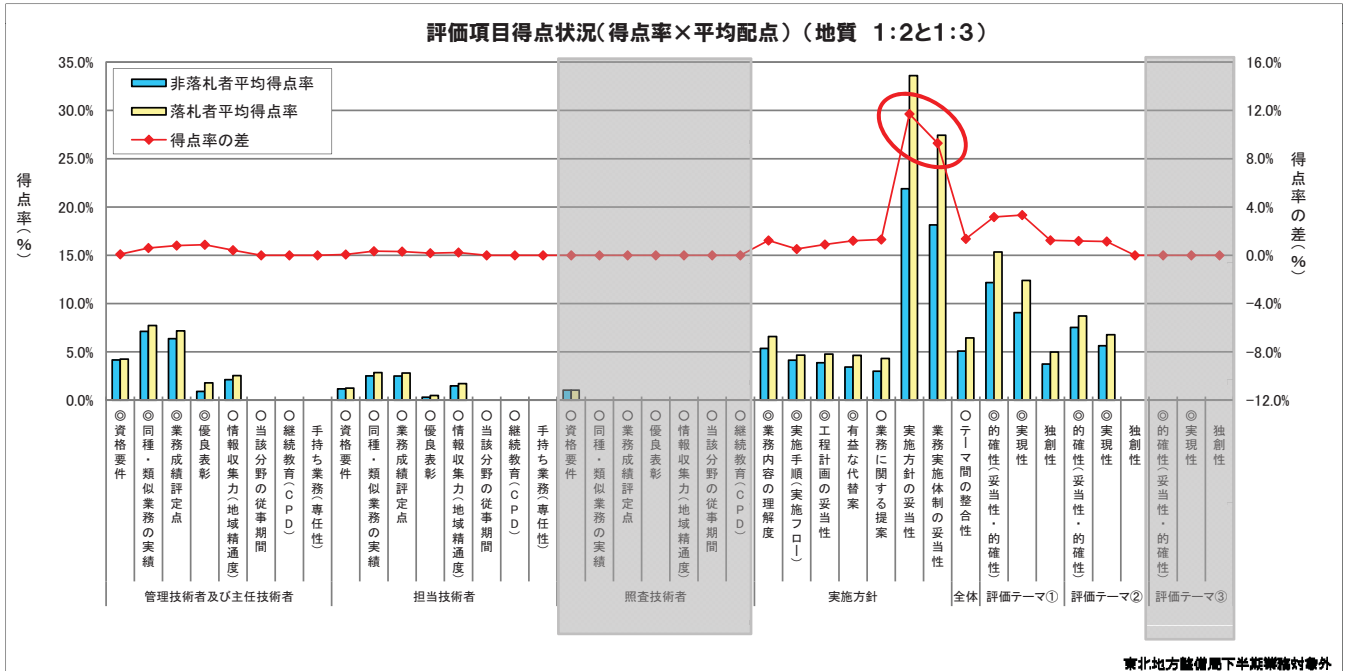
・測量(簡易型)における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「実施方針」の実施方針の妥当性、業務実施体制の妥当性において差が生じている。
 一方、「担当技術者」の評価では大きな差は生じていない。



※得点率は、項目毎の満点に対する得点割合に各項目の平均配点率を乗じたもの。
 ※図中網掛け部分は、該当する評価項目の採用率が全て10%未満である「評価項目カテゴリー」を示す。

9. 評価項目毎の得点率(地質調査 標準型)

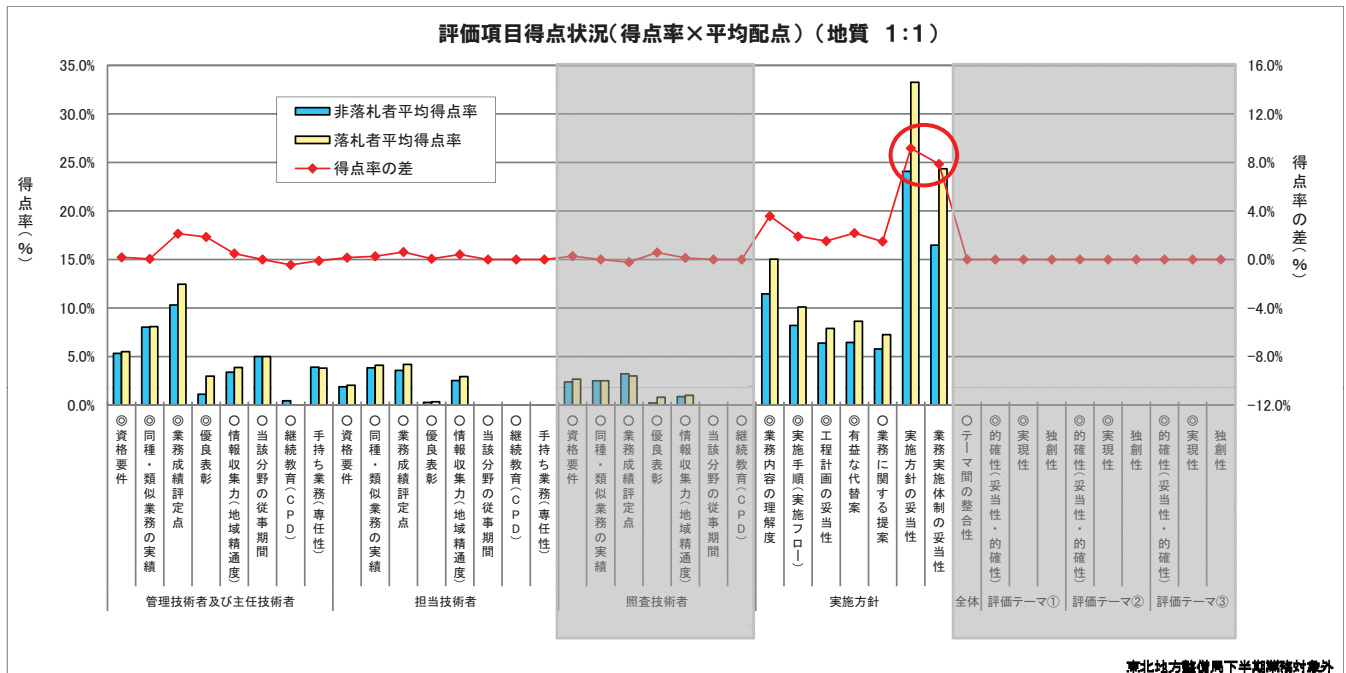
・地質調査(標準型)における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「実施方針」の実施方針の妥当性、業務実施体制の妥当性、において差が生じている。
 一方、「主任技術者」、「担当技術者」の評価では大きな差は生じていない。



※得点率は、項目毎の満点に対する得点割合に各項目の平均配点率を乗じたもの。
 ※図中網掛け部分は、該当する評価項目の採用率が全て10%未満である「評価項目カテゴリー」を示す。

9. 評価項目毎の得点率(地質調査 簡易型)

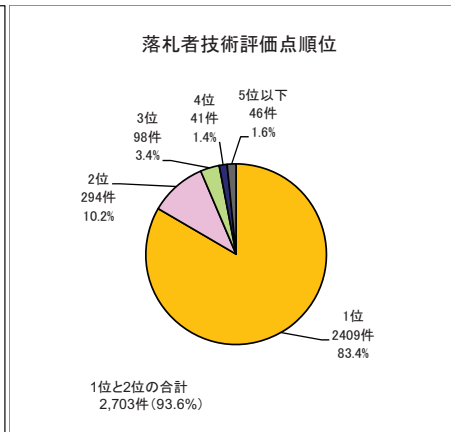
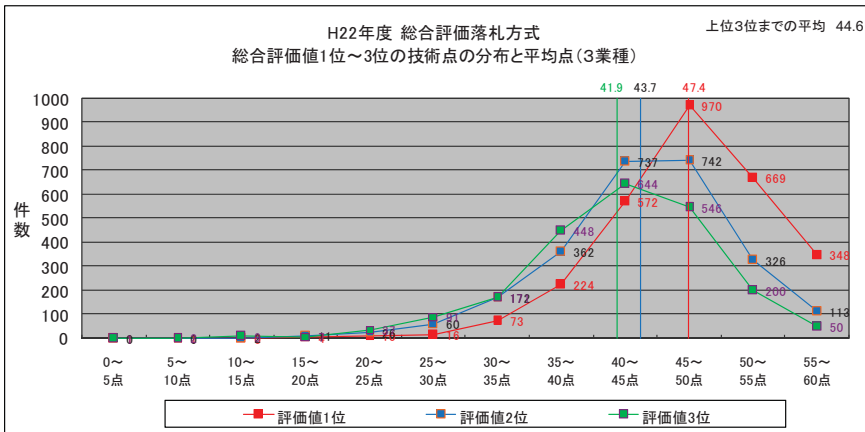
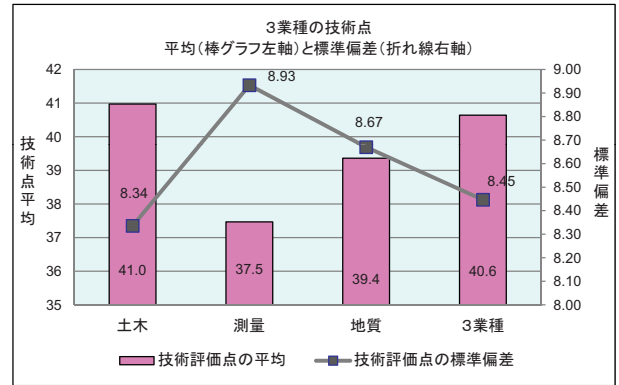
・地質調査(簡易型)における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「実施方針」の実施方針の妥当性、業務実施体制の妥当性において差が生じている。
 一方、「担当技術者」の評価では大きな差は生じていない。



※得点率は、項目毎の満点に対する得点割合に各項目の平均配点率を乗じたもの。
 ※図中網掛け部分は、該当する評価項目の採用率が全て10%未満である「評価項目カテゴリー」を示す。

10. 落札者と評価値が2位、3位の技術点分布

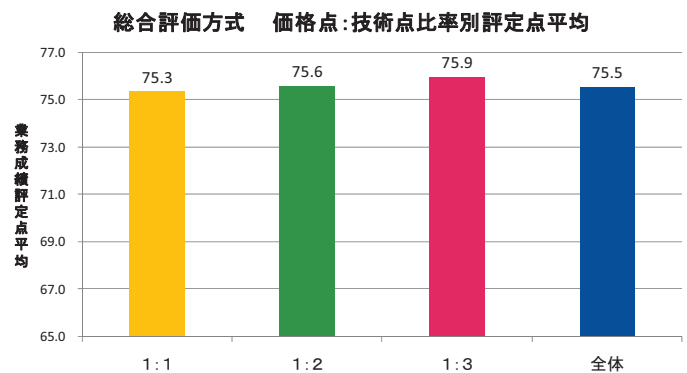
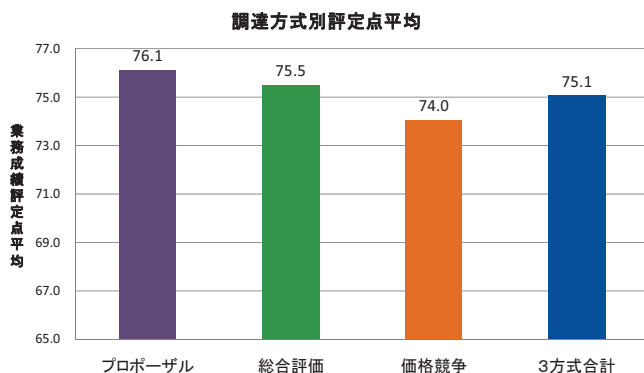
- ・9割を超える業務で技術点順位が1位又は2位の者が落札しており、高いレベルで競争が行われている。(右下図)
- ・評価値1位(落札者)と評価値2位、3位の点数を比較すると、その差はそれぞれ3.7点、5.5点となっており、60点満点全体の1割程度の中で3者の競争が行われている。(左下図)
- ・全応札者の技術点平均は40点前後。(右上図)



※分析対象は、3業種(土木、測量、地質)、2,888件

11. 調達方式、配点比率と業務成績の関係

- ・平成22年度の総合評価落札方式の成績評定点平均は75.5点となった。これは価格競争よりも1.5点高い得点となっている。
- ・総合評価落札方式における成績評定点平均は技術点の比率が高いほど高くなる傾向があり、成績評定点平均で1:3の業務(75.9点)が1:1の業務(75.3点)よりも0.6点高い。



※分析対象は、全業種(土木、測量、地質、建築、補償、発注者支援)で、成績評定データとマッチングできた業務。
全調達方式N=12,443件、総合評価落札方式N=4,949件